

INVESTOR RELATIONS デリカレポート

DELICA REPORT

22 第22期 事業報告書

2024年4月1日 ▶ 2025年3月31日



デリカフーズホールディングス株式会社
DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.

東証スタンダード 証券コード 3392

TOP MESSAGE

代表取締役社長 大崎 善保

2025
JUNE



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当期も事業報告をすることができましたのは、ひとえに株主の皆様のご理解ご支援の賜物と重ねて御礼申し上げます。

当連結会計年度（2024年4月1日～2025年3月31日）におけるわが国経済は、所得・雇用環境の改善などを背景に景気の緩やかな回復傾向が継続する一方で、ウクライナ情勢の長期化や米国における新政権誕生など地政学的リスクの高まりに加え、物価高や円安基調の継続、金融資本市場の変動の影響、個人消費の伸び悩みなど、先行きは依然として不透明な状況にあります。

このような中、当社の主業である青果物流通事業は、外食需要の堅調な推移や省力化ニーズの高まりを背景に、着実に売上を伸ばしました。その他、BtoC事業においてはミールキット商品を中心に商品ラインアップや販路の拡充を推し

進め、物流事業でも「物流業界の2024年問題」を好機としてグループ外売上の拡大に努めました。以上の結果、当連結会計年度における売上高は、58,762百万円（前期比11.2%増）と3年連続で過去最高を更新しました。

損益面では、従業員の処遇見直し、商品開発・研究開発への積極的な先行投資等に伴う経費増が発生する中、2024年4月に開設した大阪F5センターにかかる一過性の諸経費が発生したこと、春先の長雨や夏場の猛暑、秋以降の少雨等、天候不順の影響で輸入商材を含め、各種野菜の仕入価格が過去に例を見ないレベルで急激に、また長期にわたり高騰したことが収益悪化要因となりました。しかし、第4四半期に入り野菜価格が総じて落ち着く中、現場オペレーションの効率化を一層図ったことに加え、お取引先様への丁寧な説明を実施した上での売価改善などの効果もあり、収益体質の強化が着実な成果として表れるようになりま

した。

最終的に、当連結会計年度の営業利益は805百万円（前期比29.0%減）、経常利益は884百万円（前期比29.7%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は542百万円（前期比46.5%減）と、いずれも減益となったものの、2024年10月に修正した業績予想を上回る着地となりました。

当社としては、引き続き中期経営計画の基本方針を着実に実践し、事業基盤の拡充に努めてまいります。また、調達面の強化を進め、仕入コストの安定的なコントロールを実現することに加えて、2025年4月に稼働を開始した玉ねぎ加工専用工場（大阪）を始めとする生産面の効率化など筋肉質な収益体質への改善も図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きのご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

業績の概況

売上高は過去最高、
利益は減益ながらも
業績予想を上回る

当連結会計年度の業績

売上高	58,762百万円 (前期比11.2%増)
営業利益	805百万円
経常利益	884百万円
親会社株主に帰属する 当期純利益	542百万円
1株当たり 当期純利益	33.26円
総資産利益率 (ROA)	1.95%
株主資本利益率 (ROE)	6.10%

取締役のご紹介

取締役
こばやし けんじ
小林 憲司



デリカフーズ株式会社
代表取締役社長 兼任

取締役
なかやま こんの
仲山 紺之



取締役
いちの まりこ
市野 真理子



デザイナーフーズ株式会社
代表取締役社長 兼任

社外取締役
おざき ひろゆき
尾崎 弘之



社外取締役
しばた みすず
柴田 美鈴



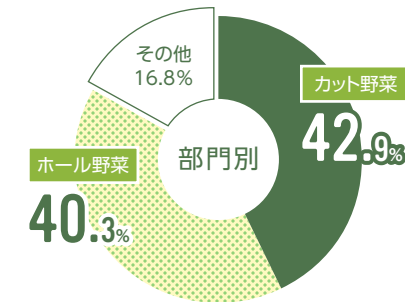
取締役会長
たちもと いさたけ
舘本 勲武



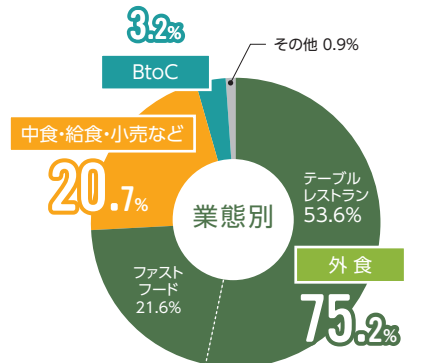
人件費の増加や原材料の高騰を乗り越えて

売上高は3年連続で過去最高を更新しました。青果物流通事業では、外食需要が堅調に推移し、省力化ニーズも売上に寄与。物流子会社のエフエスロジスティックス(株)では、「物流業界の2024年問題」をチャンスととらえ、新規開拓によるグループ外売上の拡大に努めました。営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益はいずれも減益の一方、売価改善の効果などにより、2024年10月に修正した業績予想を上回る結果となりました。

販売構成比



加工していない野菜そのものをホール野菜、お客様のご要望に合わせて加工されたものをカット野菜といいます。その他にはBtoC事業の主力商品であるミールキットなどが含まれております。



コロナ禍前は全体の8割以上が外食業界に向けた売上でしたが、ポートフォリオの変革によって現在は中食・給食・BtoC向けの需要にも対応しております。

国産青果物 サプライチェーン改革

今、世界で何が起こっているのか？

異常気象

世界的に進む温暖化や各地で発生している異常気象は、農作物の生育に多大な影響を与えており、野菜の市場価格も不安定な状況に陥っています。例えば、2024年の夏の高温、冬までの降雨量の少なさから生育が遅れたキャベツが、一時は前年同期の3倍以上まで価格高騰しました。

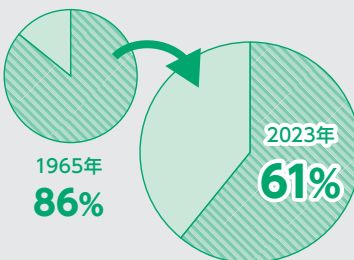


■ キャベツ卸売価格 (東京中央市場) ※1

為替リスク

輸入野菜の仕入価格は為替相場の変動の影響を受けます。為替リスク、また地政学リスクの軽減を図るため、当社グループは特に加工用として需要のある輸入原料（玉ねぎ、トマトなど）を対象に、輸入依存度の高い品目の国産化を推進しています。

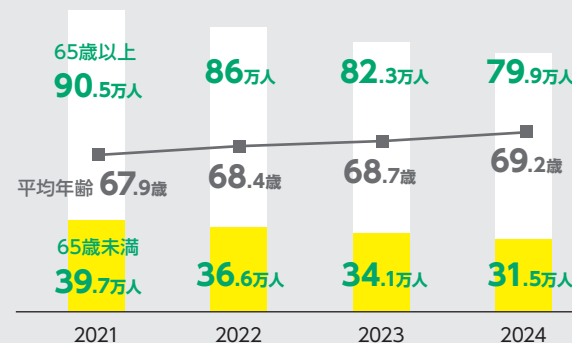
■ 食料自給率 (生産額ベース)



高齢化と担い手不足

日本の基幹的農業従事者（ふだん仕事として主に自営農業に従事している者）は111万人と言われ、その年齢構成は65歳以上が全体の約80%を占めています。また平均年齢も69.2歳と高齢化が進んでおり、将来の人手不足は避けられない状況です。こうした背景から、業界全体で「若い世代の育成」と「生産性を向上させるための“仕組み”づくり」が必要となっています。

■ 基幹的農業従事者 内訳と平均年齢※2



※1 農林水産省統計部「青果物卸売市場調査 (日別調査)」より

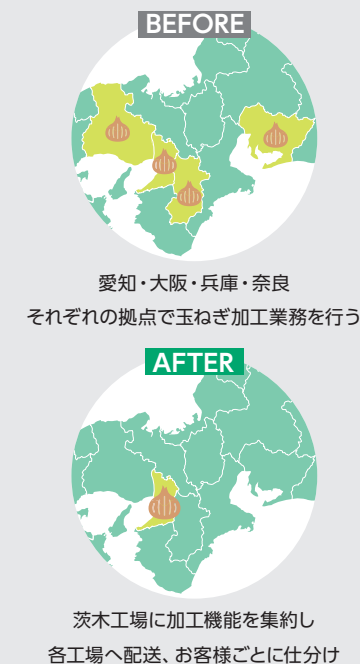
※2 農林水産省統計部「農業労働力に関する統計」より

当社グループは2024年度からの中期経営計画『keep on trying 2027』を策定し、「調達面の強化」を今後の重要課題としています。本特集では、業界の現状を踏まえた取り組みをご紹介します。

01 グループ初の玉ねぎ加工専用工場が始動

原料調達の効率化や品質向上のため、大阪事業所「茨木工場」（大阪府茨木市）を「玉ねぎ加工専用工場」としてリニューアルしました。本工場は、西日本エリア拠点（愛知・大阪・兵庫・奈良）の玉ねぎ加工業務を集約した施設となっています。また、各工場の空いたキャパシティは付加価値の高い別商品の製造に充てることで、グループ全体の生産性向上を図ります。

■ 西日本エリアの業務を集約！



■ 茨木工場（玉ねぎ加工専用工場）の主な機能



鮮度を保つ生産ライン

原料保管から製品化まで全工程5℃帯の冷蔵庫で生産され、従来よりも消費期限の延長が可能。

機械化により少人数化へ

玉ねぎの皮むき作業や検品工程を機械化することで、より少ない人員で生産することが可能。

セキュリティも万全に

フードテロ対策として、工場へのアクセス管理システム（顔認証）を導入。





02 国産赤系トマト促進への取り組み

トマトを色によって分類すると、果皮が薄めで甘味が強く、主にサラダなどの生食に利用される「ピンク系」と呼ばれる品種と、果皮が硬く果肉が厚めで加工用などに使われることの多い「赤系」と呼ばれる品種に大きく分けられます。赤系トマトは日持ちが良く、糖度よりもうま味を重視しているため、加熱調理や肉料理などに適しています。また、ゼリー状の部分が少ないためカットしやすく、サンドウィッチやハンバーガー、カップサラダなど外食での需要も見込まれます。

日本では、現在ピンク系が生産の大部分を占め、赤系トマトの調達は輸入への依存度が高くなっています。一方で、赤系トマトは調理適性や日持ちの良さ、耐暑性があり、収穫や出荷時に傷みにくいなど、国内の生産者にとってもメリットがあると考えています。当社では生産者や流通関係者などと連携しながら、安定供給が可能な生産体制や需要のさらなる開拓などに向けた協議を進め、国産赤系トマトの普及促進に努めています。

03 貯蔵出荷拠点の整備

気候変動、天候不順に伴う野菜の価格高騰の影響を低減し、収益の安定化を図ることは、当社にとって最大の経営課題の一つです。この観点から、当社では現在、貯蔵出荷拠点の整備を計画的に進めています。野菜を一定期間貯蔵することができれば、調達が容易な時期に収穫・集荷して保管し、安定的に供給していくことが可能となります。同時に当社グループのデザイナーフーズ(株)では長期鮮度保持技術の実用化に向けた研究とテストを進めています。また、この貯蔵出荷拠点では、選果・パッケージ・配送といった業務も担うことで、生産者の負担軽減に貢献します。

今年度中に中京エリアで開設を予定しているほか、中期的には国内の他エリアにも貯蔵出荷拠点を開設することを計画しています。



農家の作業領域（選果や箱詰め・パッケージ）を流通へ移行し、作業負担や人件費の軽減が可能に。

中期経営計画『keep on trying 2027』達成への道

2024年4月より、「10年後のありたい姿」を明確にするとともに第五次中期経営計画『keep on trying 2027』をスタートさせました。第五次中期経営計画では2024年度からの3年間でさらなる成長への変革期間ととらえ、「各種ポートフォリオの変革」「青果物サプライチェーンの構造変革」「研究部門・開発部門への投資拡大」の基本方針のもと、具体的な施策展開を推進し、利益率の向上と強固な財務基盤の構築を目指します。

基本方針のうち、「青果物サプライチェーンの構造改革」は、近年頻発する異常気象を要因とする調達リスクや為替リスク、地政学リスクを鑑みて、今後の重要課題と位置づけています。

	24年3月期 実績	25年3月期 実績	27年3月期 目標
売上高	528億円	587億円	600億円
経常利益	12.5億円	8.8億円	18億円
(経常利益率)	(2.4%)	(1.5%)	(3.0%)
EBITDA	21.3億円	19.7億円	28億円
ROE	12.3%※	6.1%	10.2%

※2024年3月実績は税効果会計の特殊要因あり

輸入野菜の国産化 + 調達インフラの再構築 + サプライチェーンの合理化 = 持続可能かつ機能的な青果物インフラ

■ 長期ビジョン：10年後（2034年）のありたい姿へ

野菜の総合加工メーカーとしてのポジションを確立

持続可能な農業の実現

個人の幸福と会社の繁栄の両立を実現

デリカフーズグループ初の統合報告書を発行

すべてのステークホルダーの皆様へ財務・非財務情報を統合的にお伝えすることを目的に、グループ初となる「統合報告書 2024」を発行しました。本誌では、数々の挑戦を重ねてきた当社グループの歩みや中期経営計画、各種戦略、サステナビリティ経営の推進などについて掲載しており、当社をより深く理解いただける一冊となっています。



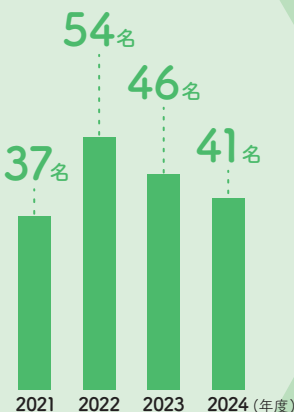
「統合報告書 2024」は当社コーポレートサイト内「IR資料室」にてご覧いただけます！
<https://www.delica.co.jp/ir/>



新卒社員採用数

毎年50名程が新卒採用で入社しています。当社の「MVV（経営理念）」や想いに共感し入社した人財は、社内の育成プログラムに沿った研修を受けながら、実務を通して成長していきます。

- 取り組み
- ・工場見学会（インターン）
 - ・先輩社員との座談会（インターン）
 - ・社長と内定者の個別入社前面接実施
 - ・新入社員向けイベントの実施

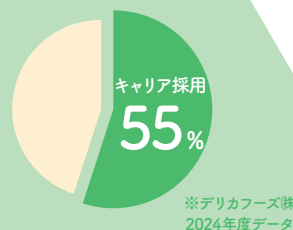


キャリア比率

キャリア採用も積極的に行っており、2024年度は幅広い分野から55名が入社しました。基本的に即戦力として入社いただきますが、全員が「現場研修」を受け、当社の事業内容をより深く知った上で活躍しています。

取り組み

- ・キャリア社員入社式
定期的に全国の新たなキャリア社員向けに合同で行う。会社の経営戦略や理念などの社長講義、懇親会も開催。
- ・新入社員向け研修等への参加
会社の理解を深める機会として活用。



デリカの人財

当社グループでは、社員の活躍を念頭に、一人ひとりが自身のキャリアに向き合えるような施策を考案・実施しています。今回は、その取り組みの内容を一部ご紹介します。

01 長く働いてもらうための施策

育児時短勤務延長制度

Before

3歳

After

小学3年生

子どもが小学3年生の3月31日を迎えるまで、「育児時短勤務延長制度」を利用することができます。当制度を活用して、全国の事業所では、多くの従業員が勤務を続けています。

定年制度の延長

正社員

満65歳

パートタイム

満70歳

制度改定により、満60歳としていた正社員の定年退職の規定を、満65歳まで延長しました（選択制）。これにより、ベテラン社員は従来通り豊富な経験や知識を活かせると共に、安定雇用、安定収入が見込まれることで経済的なメリットにもつながります。

デリカの人財に対する考え方

「心身両面における健全性を実現する人的資本施策」をマテリアリティの一つに特定する当社グループは、全従業員が志を高く持ち、活躍できる企業であることを目指しています。人財は当社ビジネスの生命線であると認識し、育成の面では、独自の教育体系を構築しています。



02 キャリアごとの研修

部門別研修

新入社員向け年次研修

女性幹部育成講座

次世代アカデミー

PICK UP!

次世代アカデミー

当社は正社員の平均年齢が37.5歳（2024年3月期）と若いため、2023年より「次世代アカデミー」を実施し、次世代リーダーを育成しています。アカデミーは、役員幹部としての「あるべき姿」を学び、お互いの理解を深める場としており、創業者の館本とグループトップの大崎が直接指導に当たっています。



学べること

・「私の履歴書」発表

誕生から現在までの体験や経験をもとに役職者や幹部候補生一人ひとりが「自分」を整理し、他の受講者へプレゼンします。

・事例ディスカッション

判断力や管理能力について、参加者全員がディスカッション形式で学びます。

・トップリーダーとの自由質疑応答

事業所運営や経営、志などの想いを含め、次世代リーダーの質問に創業者の館本とグループトップの大崎が回答します。

次世代アカデミーは、会長と社長より会社の歴史や判断基準について教えていただく場です。特に印象的だったのは、「社長退任や予期せぬ事態が起きた際の、次期代表」に関するディスカッション。難しいテーマでしたが、さまざまなケースを考え、備えることができました。また参加者同士の交流も増え、団結力が一層高まりました。

受講者の声



東京事業所
事業所長
矢島 匠



NEWS

株主優待制度の変更に関するお知らせ

RAKUSAIオンラインショップポイントが
ご選択可能に

当社株式への投資魅力を高め、事業へのご理解を深めていただくことを目的に、2025年度より当社株主優待制度を変更いたします。適用時期につきましては、2025年9月末日を基準日とする当社株主名簿に記載された株主さまより、変更後の株主優待制度を適用いたします。なお、経過措置として2025年9月末日基準の株主優待に限り、6カ月以上の保有条件はありません。お申し込み方法等は10月下旬（予定）に対象の株主さまにお届けする案内状をご確認ください。



保有株式数	優待内容※
400株以上 800株未満 (6カ月以上保有)	① 2,000円分のクオカード ② 3,000円相当の優待オリジナル RAKUSAI青果ボックス ③ 3,500円分のRAKUSAIオンラインショップポイント
800株以上 1,200株未満 (6カ月以上保有)	① 4,000円分のクオカード ② 6,000円相当の優待オリジナル RAKUSAI青果ボックス ③ 7,500円分のRAKUSAIオンラインショップポイント
1,200株以上 (6カ月以上保有)	① 6,000円分のクオカード ② 10,000円相当の優待オリジナル RAKUSAI青果ボックス ③ 11,000円分のRAKUSAIオンラインショップポイント
1,200株以上 (3年以上保有)	① 6,000円分のクオカード ② 10,000円相当の優待オリジナル RAKUSAI青果ボックス ③ 11,000円分のRAKUSAIオンラインショップポイント 上記のいずれかに加え、2,000円相当の商品

※ご所有の株式数に応じて①～③のうち、1つをお選びいただけます。

NEWS

大阪FSセンター 業務開始より1周年

初年度内に単月黒字化を達成

2024年4月より業務を開始した大阪FSセンターは、当社の関西圏の主要拠点としてグループ社員の力を結集して活動しました。年度内に単月での黒字化を達成し、計画以上に順調な初年度となりました。

また、品質管理部門を中心にFSSC22000の認証取得に取り組み、無事に取得が完了（2025年5月）しております。これからも安定的な運営環境構築とさらなる収益への貢献を目指してまいります。



NEWS

株主工場見学会を実施

コロナ禍を経て約4年半越しに開催

2020年2月に開催を予定し、新型コロナウイルス感染拡大のため延期となっていた「株主工場見学会」を、約4年半越しとなる2024年11月7日、デリカフーズ(株)東京事業所に21名の株主さまをお迎えして実施いたしました。ご案内の皆様には長らくお待たせしてしまいましたが、当社役員からの説明や質疑応答、工場見学、商品試食などを通して、当社の事業と魅力を直接お伝えさせていただきました。今後も、株主の皆様へより積極的に当社事業をお伝えしてまいります。





オンラインショップのご紹介

「おいしくてカラダに良いものを楽しんで・楽しく食べていただきたい」という願いから、新鮮でおいしい野菜を食卓にお届けする楽彩(株)。ミールキットを中心に、皆様に新たな食を提案する「RAKUSAIオンラインショップ」を展開しています。

オンラインショップ ▶ <https://rakusai.shop/>



ミールキット

食材とレシピをセットにした料理キットを30種類以上ご用意。RAKUSAIのミールキットは、デリカフーズグループのノウハウを活かし、新鮮な野菜のおいしさを皆様にお届けします。有名シェフと共同開発したミールキットもご好評いただいております。ミールキット累計販売数は40万食を突破いたしました。



主な取り扱い商品

青果ボックス

定番野菜と旬の青果をバイヤーが厳選して定期便でお届け。8種類入りと15種類入りの2つのセットがあり、配送間隔も選択可能です。



産直シリーズ

レジェンド農家さんのおいしい旬の青果を期間数量限定で販売しています。旬の味をお楽しみください。



加工品・その他

バイヤーが市場で見つけた食材や、デリカフーズ食品事業部が開発に携わった冷凍ポタージュなどを限定販売することも。



公式SNSで最新情報をチェック!

各種SNSで楽彩の公式アカウントを開設し、商品に関する情報を発信しています。

Instagram @rakusai1



X @rakusai1mealkit



LINE @rakusai



デリカフーズ

全国から調達した野菜を加工し、鮮度を保って国内約30,000店舗にお届け。高いカット技術・パッケージ技術を持つ加工工場は、食品安全に細心の注意を払っています。

デザイナーフーズ

「選食力」=「栄養力」=「健康力」と位置づけ、中身評価にもとづいた青果物の研究開発から、ニーズに応じた科学的根拠のあるメニューの考案、販売戦略セミナー・講演など、食をトータルでプロデュースします。

デリカフーズグループ会社紹介

DELICA FOODS HOLDINGS

デリカフーズグループは野菜の価値を追求し、未来に向けた「持続可能な農業」と「食を通じた健康増進」を実現する企業です。

グループのコールドチェーンを実現するため、全国に広がるチルド配送網を活かし、毎日新鮮な野菜をお届けします。

「楽しく・美味しく・食卓を彩る」をコンセプトにミールキット販売事業を担います。自社グループで開発から製造まで行っている野菜たっぷりのミールキットで、日々の食事を彩ります。

エフェス ロジスティクス

楽彩



連結貸借対照表(要旨)

	単位：千円	
	第21期 前連結会計年度 (2024年3月31日)	第22期 当連結会計年度 (2025年3月31日)
資産の部		
流動資産①		
現金及び預金	4,248,578	3,716,137
売掛金	6,260,578	6,155,637
商品及び製品	271,433	331,149
仕掛品	15,148	16,207
原材料及び貯蔵品	154,390	166,516
その他	1,570,656	219,325
貸倒引当金	△10,571	△10,327
流動資産合計	12,510,214	10,594,645
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,185,802	8,110,848
土地	3,914,760	3,914,760
その他（純額）	2,764,240	2,624,295
有形固定資産合計	14,864,803	14,649,904
無形固定資産		
その他	60,853	64,364
無形固定資産合計	60,853	64,364
投資その他の資産		
投資有価証券	793,716	699,354
繰延税金資産	23,661	27,674
その他	596,805	606,786
貸倒引当金	△1,667	△1,762
投資その他の資産合計	1,412,516	1,332,052
固定資産合計	16,338,173	16,046,322
資産合計	28,848,387	26,640,967

	単位：千円	
	第21期 前連結会計年度 (2024年3月31日)	第22期 当連結会計年度 (2025年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,826,404	3,059,851
短期借入金	2,200,000	650,000
1年内返済予定の長期借入金	1,973,774	1,587,727
未払法人税等	167,405	134,805
未払金	2,026,548	2,536,739
その他	552,356	422,203
流動負債合計	9,746,488	8,391,326
固定負債		
長期借入金	9,232,933	8,116,038
その他	1,118,107	1,103,096
固定負債合計	10,351,040	9,219,134
負債合計	20,097,528	17,610,461
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,772,363	1,772,363
資本剰余金	2,573,208	2,588,508
利益剰余金	4,107,540	4,454,159
自己株式	△20,321	△71,974
株主資本合計	8,432,790	8,743,056
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	330,366	261,487
退職給付に係る調整累計額	△12,297	25,962
その他の包括利益累計額合計	318,068	287,449
純資産合計②	8,750,858	9,030,506
負債純資産合計	28,848,387	26,640,967

連結損益計算書(要旨)

	単位：千円	
	第21期 前連結会計年度 (自 2023年4月 1日 至 2024年3月31日)	第22期 当連結会計年度 (自 2024年4月 1日 至 2025年3月31日)
売上高	52,823,998	58,762,579
売上原価	39,619,483	44,407,102
売上総利益	13,204,515	14,355,477
販売費及び一般管理費	12,069,818	13,549,843
営業利益	1,134,696	805,633
営業外収益	174,736	174,947
営業外費用	51,150	96,366
経常利益	1,258,282	884,215
特別利益	1,435,932	3,441
特別損失	1,415,104	22,765
税金等調整前当期純利益	1,279,110	864,891
法人税等合計	265,157	322,877
親会社株主に帰属する当期純利益	1,013,953	542,013

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

	単位：千円	
	第21期 前連結会計年度 (自 2023年4月 1日 至 2024年3月31日)	第22期 当連結会計年度 (自 2024年4月 1日 至 2025年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,686,928	3,797,811
投資活動によるキャッシュ・フロー③	△4,874,974	△812,906
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,935,784	△3,417,366
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,252,261	△432,460
現金及び現金同等物の期首残高	5,218,554	3,966,293
現金及び現金同等物の期末残高	3,966,293	3,533,832

連結株主資本等変動計算書

	株主資本					その他の包括利益累計額			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	退職給付に 係る調整累計額	その他の包括 利益累計額合計	
当期首残高	1,772,363	2,573,208	4,107,540	△20,321	8,432,790	330,366	△12,297	318,068	8,750,858
当期変動額									
剰余金の配当			△195,394		△195,394				△195,394
親会社株主に帰属する 当期純利益			542,013		542,013				542,013
自己株式の取得				△61,800	△61,800				△61,800
自己株式の処分		15,300		10,147	25,447				25,447
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）						△68,879	38,260	△30,619	△30,619
当期変動額合計	－	15,300	346,619	△51,652	310,266	△68,879	38,260	△30,619	279,647
当期末残高	1,772,363	2,588,508	4,454,159	△71,974	8,743,056	261,487	25,962	287,449	9,030,506

	第21期	第22期
1株当たり当期純利益(円)	62.28	33.26
1株当たり純資産(円)	537.43	557.32
自己資本比率(%)	30.3	33.9

① 流動資産

流動資産は、前連結会計年度末に比べ15.3%減少し、10,594百万円となりました。これは、主として、現金及び預金が532百万円、流動資産の「その他」が1,351百万円減少したことなどによります。

② 純資産合計

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ3.2%増加し、9,030百万円となりました。これは、主として、利益剰余金が346百万円増加したことなどによります。

③ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、812百万円の支出(前期は4,874百万円の支出)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出882百万円などがあったことによるものです。

会社概要

2025年3月31日現在

商 号	デリカフーズホールディングス株式会社		
英文社名	DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.		
設 立	平成 15 年 4 月 1 日		
創 業	昭和 54 年 10 月 6 日		
所在地	〒121-0073 東京都足立区六町四丁目 12 番 12 号		
資本金	1,772,363 千円		
従業員数（連結）	794 名（他、平均臨時雇用者数 2,274 名）		

役 員			
代表取締役社長	大崎 善保	社外取締役	尾崎 弘之
取締役会長	舘本 勲武	社外取締役	柴田 美鈴
取 締 役	小林 憲司	常勤監査役	田井中 俊行
取 締 役	仲山 紺之	社外監査役	森田 雅也
取 締 役	市野 真理子	社外監査役	三島 宏太

会計監査人	南青山監査法人
-------	---------

株式状況

2025年3月31日現在

発行済株式総数	16,372,000 株	【所有者別分布状況】（株式数）
株主総数	13,356 名	
大株主		
舘本 篤志	2,038,900 株	金融商品取引業者 1.38% その他国内法人 13.41% 外国法人等 2.84%
エア・ウォーター(株)	1,719,400 株	
舘本 勲武	967,100 株	
(株)日本カストディ銀行 (信託口)	563,500 株	自己名義株式 1.03% 金融機関 3.95%
大崎 善保	363,411 株	
(株)オリエンタル	200,000 株	
デリカフーズグループ 従業員持株会	198,400 株	【所有株数別分布状況】（株主数）
野村 五郎	189,800 株	
MSIP CLIENT SECURITIES	151,400 株	
丹羽 真清	149,400 株	

※当社は自己名義株式を168,605株保有しておりますが上記の大株主より除外しております。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町 1-1 TEL.0120-232-711（通話料無料） 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 株式会社東京証券取引所（証券コード 3392） 電子公告により行う 公告掲載 URL https://www.delica.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)
上場証券取引所 公告の方法	

- 【ご注意】
- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機構（証券会社等）で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
 - 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



デリカフーズホールディングス株式会社
DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.
〒121-0073 東京都足立区六町四丁目12番12号



IR最新情報は
ホームページを
ご覧ください。

デリカフーズ

<https://www.delica.co.jp/>

【お問い合わせ】 TEL 03(3858) 1037 FAX 03(5851) 1056



non
VOC
ink
UV



UD FONT

本事業報告書は、地球環境への負担を低減させるために、
FSC®認証紙と、UVエコインキを使用しています。

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。